



地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

コロナ診療の対応と現状

新型コロナウイルスが2019年12月中国武漢で確認され約2年になろうとしています。世界的に感染が蔓延し、今まで約2億5000万人の人が感染し約500万人が死亡しております。今も、世界では感染者が急増しているところがあります。日本も第1波から第5波と感染者は波が来るたびに増加し今年の8月には大都市圏で入院病床が逼迫し自宅でお亡くなりになられる方も出ました。福岡県でも病床が逼迫しましたが、福岡県と医師会が協力し入院調整などを行い東京・大阪のような事態には陥りませんでした。

当病院も新型コロナ感染者の検査・診断および入院加療を行い、2020年4月からコロナ患者さんの受け入れを開始。陰圧換気を備えた2床から開始し、その後、新型コロナウイルス感染患者が増加したためHCUをコロナ病床対応とし8床へ増床しました。また、新型コロナ感染疑い患者さん用に2床のベッドを確保し、今後も第6波に向けて対応しています。

外来では、他の患者さんと接触しないように発熱外来診察室にて診察・検査を行いながら、遠賀中間地域のPCRセンターとしておんが病院敷地内に設置し検査の拡充を行っております。

2021年10月末現在、6,679件のPCR検査を行い345件の陽性者、75名の新型コロナ感染患者の入院、入院延べ日数1,250日の治療にあたりました。患者さんは当地域だけでなく、福岡市・北九州市や宗像市など医療体制が一時逼迫した他地域からの患者さんも受け入れをしました。

治療として早期からアビガン(ファビピラビル)、抗ウイルス薬(レムデシビル)、抗体療法(ベクルリー)、ステロイド療法、抗凝固療法などを用い治療を行っております。現在、経口薬の治験も開始し、今後も新型コロナウイルスに対応した医療体制を整え地域の皆様に安心して過ごせる地域医療をしていきたいと思っております。

また、新型コロナワクチンの接種にも地域の医療従事者および地域住民の集団接種を当院で4,298件行い、地域の集団接種には医師・薬剤師・看護師および事務員を64回派遣しました。当地域では行政、医師会、薬剤師会、歯科医師会および看護師会とタイアップし、10月6日現在、遠賀郡1市4町の人口の1回目および2回目の接種人数・率はそれぞれ93,964人77.4%、84,825人69.89%で全国平均(約68%、61.6%)より上回りました。

現在、全国的に感染者数が減少しておりますが、これは皆様の感染対策およびワクチン接種へ理解があつてのものだと思われれます。

当院も皆様が安心して暮らせるように今後も引き続き新型コロナウイルス感染症を含め対応をしていきます。



一般社団法人遠賀中間医師会
遠賀中間医師会おんが病院
院長 矢田 親一郎

おんが・おかがき病院にて川柳コンテストを行いました。最優秀賞、優秀賞、佳作のご紹介です。

最優秀賞

ときめきと
喜んだのに
不整脈

吉田 哲郎



あれよあれ
言葉が出ない
それよそれ

波呂 祥

優秀賞

夫とは
コロナの前から
デイスタンス

榎原 百合

我が妻は
コロナ前から
デイスタンス

久保田 敦志

旦那には
寝れば絡ると
言い放つ

森長 智子

佳作

マスク越し あなたに届け 思いやり 竹之山 利夫	ありがとう その一言で 笑顔咲く 森長 智子
眉毛だけ 描いときゃいいか マスクだし 牛垣 裕子	若返り マスクでかくす 顔のしわ 北田 友理江
日曜日 娘と砂場 妻スタバ 大川 暢一郎	付度は 決してしません 体重計 大川 暢一郎
塩とれば 血圧上がる どこまでも 吉田 哲郎	全集中 してるつもりが すぐ忘れ 有吉 美樹子
誰もいない マスクを外し 深呼吸 波呂 祥	手洗いで 減らすウイルス 得る安全 清長 浩一

読めるかな? 呼吸器外科の 波呂祥 (はろあきら) 浅野 香織

新型コロナウイルスによる当院もの忘れ外来への影響について

当院もの忘れ外来では、日々、認知症の方や精神疾患を抱えた方の治療に当たっています。新型コロナウイルスが流行しだして約2年が経とうとしていますが終息の気配はありません。皆さんの生活に多大な影響を及ぼしている新型コロナウイルスは、当院もの忘れ外来にも影響を与えています。

現在、認知症の根本的な治療方法は見つかりません。そのため、認知症の治療は、認知症の進行を緩やかにし、生活の質を高めることを目的としています。認知症の治療方法には大きく分けて薬物治療と非薬物治療があります。

薬物治療は内服薬による治療です。非薬物療法は所謂デイケア・デイサービスです。日中デイケア・デイサービスに通って集団の中で活動に取り組み認知症の進行を遅らせたり、外出機会の確保、他者との交流、生活リズムの安定による生活の質の向上を目的としています。デイケア・デイサービスだけでなく習い事、地域での活動、地区の集まり、友達付き合い、近所付き合いも非薬物療法としての役割を持っています。



新型コロナウイルスの影響で人との交流が大きく制限されました。デイケア・デイサービスへの通所を控えたり、習い事が中止となったり、友達との交流を控えるようになったため外出機会が減ってしまいました。その結果、刺激が減り、以前と様子がちがう、認知症になったかもしれないと御家族が心配し、多くの方が当院もの忘れ外来を受診されています。元々もの忘れ外来に通院していた方の御家族も認知症が進行したと相談されることが多かったです。またデイケア・デイサービスへの通所を控えたり、習い事が中止となったため、認知症の方と御家族がずっと一緒に自宅で過ごすことになり、家族の負担が増えて介護疲れになってしまった方も多くいました。新型コロナウイルスへの不安と恐れや、外出できず自宅で誰とも交流なく過ごす時間が長くなったことでうつ・抑うつ状態になる方もいました。



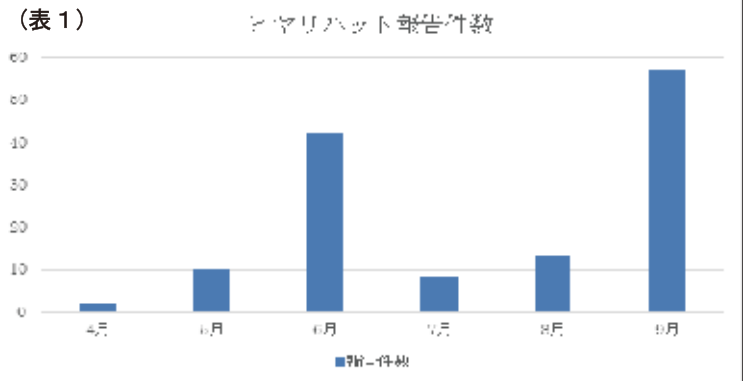
元々、認知症の方や高齢者の方は環境変化やストレスに弱くなっています。加えて新型コロナウイルスが社会全体に与えた大きな影響により更に悪影響が及んでいます。担当医と相談し早目の対応ができますので、少しでも不安に思う事があれば当院へご相談ください。地域の皆様方のお役に立てるよう日々頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。



医療安全管理の活動について

令和3年4月より、医療安全管理者として専任になり半年が経過しました。現場ですぐに導入できる5S活動（5S：整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）を現場で実施しました。「整理・整頓」は異常を発見する環境づくりであり、異常を発見する検出システムにもなります。「整理・整頓」してあるからこそ、視えるという事をベースに、見えるようにする仕事の大切さと「見られない（視られない）環境で仕事をする」ことの怖さを知る事を念頭に日々取り組んでいます。

また、医療安全を組織で醸成する安全文化づくりで①報告する文化②正義の文化③柔軟な文化④学習する文化の組織づくりとして、まずはヒヤリ・ハット報告を中心にとりかかりました。風通し＝意見が言える環境であり、現場で数多くの前触れ（ヒヤリ・ハット）を認識し、その事例を有効に活かせば、軽微な事故や災害を防げる一助になります。そうなれば当然、重大な事故も発生しにくくなり、そして多職種で共有することで安全な入院生活の提供につながってきます。令和3年度ヒヤリ・ハット事例件数（表1参照）は4月2件であったものが、各部署の取り組みで月平均22件になっています。報告方法を用紙から電子入力誰でも簡単に入力でき、どの部署からも閲覧できる体制を作りました。インシデント報告件数も同様に、多くの報告を行いやすい体制を作りました。インシデント事例を活用し、全体への情報共有のため、モーニングカンファレンスを通じて週1回の問題提起や注意喚起し、現場へフィードバックすることで再発の防止に取り組んでいます。医師からの意見や協力も頂き、現場に必要な内容での教育も実施しています。



職員・患者さんや家族がおかがき病院にきてよかったといえる組織として取り組んでいきたいと思えます。成果を可視化できるように、『透明性なくして、安全なし』をモットーに医療安全活動に精進していきたいとおもいます。

おかがき病院 医療安全管理者

森尾 千秋

(参考配布資料)

医療安全管理室よりお知らせ

重大事故につながりかねない事例がありましたので報告します。

入浴時ストレッチャーへの移動をスライディングボードを使用して移動させようとした際、**ストレッチャーの固定忘れがあり転落しかけた事例**がありました。今回、介助者がたまたま男性で受け止めることでため、骨折などの重大事故には至りませんでした。今後も起こりうる事例ですので安全確認のため周知をお願いします。

当院3病棟、通所リハ、ショートステイではストレッチャーでの入浴や車椅子の入浴の患者が多くいます。車椅子固定忘れも同様に同じです。

入浴介助の際、**介助者同士でストッパー固定ができていないかの確認を声出し、固定部分への指差し呼称で確実に固定ができていないかの確認を行ってください。**また、介助者は適切な位置配置で安全に患者を移動させるように現場で確認を行ってください。



ロックがかかっていない

固定していない

発行日：令和3年12月吉日
発行：遠賀中間医師会おなが病院・おかがき病院
編集：おなが病院・おかがき病院広報委員会